



とびっきりの巨峰を40分間食べ放題！

巨峰収穫体験ツアー 参加者募集



丹澤農園・丹澤修さん。低農薬の果樹栽培に取り組んでいます。

巨峰のシーズンは8月下旬から9月中旬まで。その中でも、酸味と甘みのバランスがちょうど良い、「ここ！」っていう日が3日間ほどあります。今回その日を選んで、収穫体験を企画しました。甘いだけじゃない巨峰の味を、畑で直接もぎ取って、作り手のお話も聞きながら、味わってください。
※一般の2分の1以下の低農薬で栽培された巨峰です。

9月4日(土)

10:30~13:00

※現地集合・現地解散

山梨市・丹澤農園の巨峰畑

参加費・3,000円

■スケジュール

- 10:15 山梨市駅集合 車の方は畑集合
- 10:30 丹澤農園にて巨峰のもぎ取り体験
- 11:15 巨峰や果樹の栽培について丹澤さんにお聞きしながら昼食
- 12:30頃 解散

■募集要項

【集合場所】 山梨市駅

- ・電車をご利用の方→新宿発8:30、山梨市着10:06の電車にお乗りください。駅までお迎えに上がります。
- ・自家用車の方→丹澤農園の畑に直接おいでください。

【参加費】 3,000円 3歳未満無料
ご家族様10,000円

※現地集合現地解散になります。

※昼食はお弁当をお持ちください。

希望者にはマクロビオティックカフェ「hakari」のカレー(実費・700円)をご用意いたします。



【体験内容】

40分間巨峰のもぎ取りと食べ放題。昼食を食べながら丹澤さんとの交流。

※お持ち帰りの巨峰は別料金となります。

【お申込みは】以下のWEBサイトのお問い合わせフォームからお申込みください。

<http://www.hontabe.com>

その際以下の項目についてお知らせください。

- ・参加者数
- ・参加者名及び年齢
- ・交通(電車・自家用車)

追って詳細な資料他のご連絡をいたします。

【申込締切】8月31日(火)

【最少催行人数】5名

お問い合わせは

ほんものの食べものくらぶ 手島

teshima@hontabe.com

ほんものの食べものくらぶ体験ツアーとは…? 農家のフィールドである畑。そこに出かけて様々な体験をすることにより、「農」を身近に感じていただく体験ツアーです。受け入れ農家はすべて低農薬栽培に取り組む若い人たち。農業にかける思いも伝えます。



丹澤修さんプロフィール



【丹澤修の経歴書】

★昭和46年4月生まれ

いのしし年のおひつじ座

羊の皮をかぶった猪

子供のときから変人

落ち着きの無い小学校時代を過ごす

★平成6年就職、しょうゆ会社の研究室で、麹菌と戯れる。ラグビーボール片手に試験管を握る生活を送る。ラグビーで広島国体に出場したり、全国クラブ選手権で3位になったり仕事はほとんどしなかった。そんなわけで円満退社

★平成9年就農

2年間山梨県果樹試験場に研修生として、果樹栽培を学ぶ

配属先は病害虫科、農薬と病害虫についてみっちり勉強する

農薬大好き、虫、病気大好きになる

★平成11年父の死去

★平成13年減農薬栽培は始める

★平成14年特別栽培認証取得

★平成17年ネクタリンの畑をカイガラムシで全滅にしよう

★丹澤修さんからメッセージ

農業をはじめた理由は、親父に「お前がやれ」の一言。兄がいたので一度は断りましたが、親父の熱意に負けて就農しました。

減農薬をはじめたきっかけは、単なる経費削減と、他者との差別化をしたかったため。親父がいなかったので自分の思うように農業ができたということも大きいです。ふつうは低農薬栽培などに取り組むと、親に反対されるものです。

実際にやってみると、ネクタリンの畑を全滅させてしまうなど、農薬を減らすことのリスクはかなり高く、使う・使わないの判断が難しく、今年は特に難しかった。こと今年はネクタリンは灰星病の発生で、収量が半減し痛い目にあいました。

最近、食べものを作っているという責任感が沸いてきました。見栄えや、収量を追い求めるため過度に農薬、肥料に依存した栽培には疑問を持っています。

自然本来の、樹の性質を十分に発揮した時、本当においしい果物が出来ると思ってます。僕はその手助けをしているだけ。だから、雨が降って腐ってしまうのがない、世間のぶどうより小粒でもしょうがないです。

果物は、種を動物に運んでもらうためにおいしい果実を実らせています。種がないということは、植物本来の性質を打ち消してしまっていると思う。

簡単、便利が消費拡大に大切だという意見があるけれど、おいしくてまた食べたいと思ってもらえることが、みんなに支持されることではないのかなあとちょっとえらそうに書きました。

★巨峰について

「巨峰」は、1937年（昭和12年）に、大井上康さんにより育種されたぶどう。実は「巨峰」はぶどうの品種名ではなく、「石原センターアル」というブドウ品種の商品名であり、1955年（昭和30年）に商標登録された商標です。以前はきちんとしたルールがありましたが、現在ではなし崩し的に使用されているようです。

一時期は高級ぶどうでしたが、栽培量の増加により最近では庶民のぶどうになりつつあります。また、食べやすいからということで種なし巨峰を栽培する人が増えてきています。でもしかし、「やっぱり巨峰は種ありじゃないとおいしくないよ」と筋金入りの農家のおっちゃんたちは言います。丹澤さんの巨峰は種あり巨峰。豪快にぶっぶぶぶぶと種を出しながら、食べ放題を楽しんでください。